

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370104907		
法人名	有限会社 サン企画		
事業所名	グループホームグリーンハウス		
所在地	岡山市中区祇園41-1		
自己評価作成日	平成22年1月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設の理念である「明るく・楽しく・あたたかく」を基本とし、要支援・要介護状態の認知症のかたに対し共同生活住居において、入居利用者皆さんが安心して自立した日常生活が送れるよう、家庭的な環境のもとで入浴・排泄・食事をはじめとした介護、その他日常生活におけるお手伝い及び健康管理・機能訓練を行い安心して生活いただけるためのサポートを行います。また日常生活パターンも時間に追われることなく個人に合ったリズムで生活頂くように努めております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成22年1月28日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の思いを汲み取れるよう日頃からよく観察し、定期的に職員間で検討し実践している様子が窺えました。また施設長が地元の方で、町内との密接な関係があり地域行事の参加や公民館の活用も積極的に行っているようです。少ない職員でも工夫で、夜にホテルや花火を見に行くなど季節に合った働きかけも大切になさっているようです。また、お正月等は家で過ごす機会を作れるよう家族とのコミュニケーションを大切にしながら、その必要性を説明し利用者と家族の絆を保とうとする姿勢が強く感じられました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	倫理綱領を各自が持つとともにホーム内に掲載し共有事項して実践する、またミーティング時唱和する	事業所の倫理綱領をつくり、目につくようにホーム内に掲示しミーティング時には唱和している。「明るく、楽しく、あたたかく」の理念を職員で共有し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域イベントへの参加(公民館・地元町内のお祭り等)	地域の方が花を持って訪問してくださったり、地域や公民館での行事に参加したり、図書館の利用等で地域と繋がりながら暮らしている。又施設長が地域の方なので日常的に交流できる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お祭り等の町内イベント参加時協力を頂く、また散歩時出会った方との会話を心がける		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	成果的には取り組みが不十分であり今後地域公民館・市職員への協力を要請したうえでサービス向上に役立てたい	ホームのイベント時に開催されていて、そこでの意見をサービスの向上に結びつけるよう心がけている。	今後も運営推進会議への参加を「市」に依頼し、運営推進会議での意見等をサービスの向上に役立ててください。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・介護保険課指導係とは連絡を取り合い相談・助言を頂いている ・地域包括高島サブセンターに相談等協力頂く	市の担当者と連絡を取り合い、相談・助言や地域の情報をもらい、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除が基本であるが緊急事態を想定し指針マニュアルを作成、しこれに則り行動する	身体拘束排除指針マニュアルを作成し、これに則してケアに取り組んでいる。一方のユニットには安全に過ごせる工夫の1つとしてドアに鈴がつけられていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待防止マニュアル、資料を作成 ・身体的異常確認(入浴時等)を日々行い早期発見を図り防止に努める ・スタッフ間で虐待防止が徹底されている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後の課題として外部講習等に参加し知識を習得する		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時の質問、疑問点は十分理解頂き捺印頂く ・改定時は文書にて通知と共に来訪時口頭にて説明する		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・外部評価アンケート集計に関して改善・回答項目を検討し結果を家族に報告(遠距離者送付含む) ・内容を申し送りノート記載し共有化、ミーティング等にて討議し改善を図り即意見を反映さす	主訴が出来ない利用者には行動の観察や声かけをし、家族の方には訪問時に意見等をうかがい、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・全体ミーティングにて討議、反映さす ・代表者と日々気楽に意見意見交換できる組織を目指している	施設長や管理者はミーティング等で意見を聞く機会を設け、職員が日々仕事がしやすい環境づくりをめざしています。時には施設長も一緒にケアをされるようです。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	過重労働とならない人員配置、個人要望を取り入れた勤務シフト等を行うと共に風通しの良い職場環境作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の外部研修への参加にて進めている、またこれを内部研修にて活用する		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ、管理者の地域交流の場に参加し情報交換を図り改善に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期サービス計画書作成までの間、ご本人へのヒアリング・スタッフ意見等を確認し安心して過ごしていただける方向性を見い出している、ただご本人から聞けないケース多々あります		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期サービス計画書作成までの間、ご家族へのヒアリング・スタッフ意見等を確認し安心して過ごしていただける方向性を見い出している。ただし、積極的意見が聞けないケース有ります		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず生命の危険に対する予防が一番で、出来る事・出来ない事を見極め観察する、提案事項あれば報告し検討いただく		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々日常生活の中時間をかけても出来ることは見守り状態で実施してもらう、また「お手伝い」を要請し出来る仕事を見い出し提供する		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・時間を問わず訪問を依頼、来訪願う ・細かなことも報・連・相にて自分のことと理解してもらい協力体制を築く		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・年賀状・TELにて支援に努めている ・永年過ごした自宅・家族を忘れないためにも盆・正月は帰省をお願いする(帰省率35%)	馴染みの方への年賀状や電話にて関係が継続できるように支援している。またお盆やお正月には自宅で家族と過ごしてもらえるよう声かけをすると、帰省される方が三割強居られるようです。入居後も馴染みの美容院にいかれるよう勧めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活から孤立しないよう共同作業の提供(洗濯物の片づけ等)またレクでの行動、その時々声かけにて孤独にさせないように気配りする		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は他施設に入居のため出来る限り出向く様努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・コミュニケーションを図り個人の希望・意見を尊重し生活パターンに取り込む ・本人本位で取り組む	日頃の行動や会話の中から希望や意向を把握するよう努めている。ホームの庭の一角で個人用の花壇があり、手入れをされている方がおられました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・フェイスシート、サマリー、ご家族・ご本人からの情報掌握に努める ・情報事項はスタッフ共有化し掌握に努める		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々かかわりの中状態を把握しスタッフ間で共有化する ・日々の体調観察し対応する		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、ミーティングにて出た情報にて総意として考えた計画を作成とする	ケアのあり方については、本人、家族、必要な関係者との話し合いやカンファレンス等での意見を反映し、本人がよりよく暮らせるような計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々個別に行動を記録し申し送り事項として伝達、共有化を図る。 ・必要事項をカンファレンスにて討議し介護計画見直しにて取り込む		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との連絡を密にして由り適切なサービス情報を提供する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お祭り等の町内イベント参加時協力を頂く、また散歩時出会った方との会話を心がける		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・協力医療機関にて24時間連絡可能にて対応頂く ・なじみのかかりつけ医に支援いただく	入居時に馴染みのかかりつけ医での受診をお願いし、家族に受診の支援を依頼している。また家族が遠距離の方はホームの方で受診を支援している。協力医療機関にて24時間対応で相談し、適切な医療が出来るよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職兼務で看護師1名、準看護師1名にて日々見守っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会を密にし情報交換を行う		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護指針、ご家族同意書作成し対応を図る	入居時に重度化や終末期に向けた方針として、看取り介護指針ご家族同意書を作成して対応を図っている。以前家族の方も交代で一週間付き添われて、関係者と共にチームで支援して看取りをされた話をうかがう。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法講習に順次参加、また救急マニュアルを作成		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・2回/年避難訓練の実施 ・地元消防への協力要請(運営推進会議)	火災・地震や夜を想定して、入居者が避難できる方法を職員が身につけるとともに、地元消防への協力を要請している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者と「家族」とした対等な関係を築く言葉かけ、対応を行っている ・人生の先輩として思いやりの気持ちで接する	一人ひとりの人格を尊重して、思いやりの気持ちを持って、コミュニケーションを取っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図り個人の希望・意見を尊重し生活パターンに取り込む		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	団体生活の場である一定の決まりの中、強制は行わず家庭の延長とした自由を尊重する		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時鏡を見てもらう、また来ている服を話題として会話する		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者個々の能力、性格をみて出来ることは手伝ってもらう(根野菜の皮むき、お茶くみ、テーブル拭き等) また自力完食を目指しスタッフ同席にて声掛する	自力で食事できるよう支援しているが、少し難しいかたにはスプーン等の工夫や声かけをして、食事を楽しみながらできる支援に繋げている。準備、調理、片付けは無理のない範囲でお手伝いしてもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・その日の状態、医師の指示含め、また減塩食、キザミ食、等ニーズに合った対応を行う ・食事量、水分摂取量を管理する		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後口腔ケアを実施してもらう ・スタッフ内部研修にてその人の能力に合わせた方法を見出す勉強会を実施しベクトル合わせを行った		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	主訴なき方は排泄チェックにて時間を掌握しトイレ誘導を行う	主訴のない方はトイレ誘導を行ない排泄の自立に向けた支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便チェック表にて確認、ヨーグルト・冷たい牛乳等の摂取にて対応 ・腹部マッサージの実施		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	人員配置上昼食後実施、回数については個人の希望を踏まえ実施している	毎日入浴をされる方も居られるが、回数などは個々にそった支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のその日の状況を踏まえ対応する		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・内服薬変更はスタッフ共有事項として伝える ・スタッフ内にナースもおり情報提供、また経過観察に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味を生かすべく支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・散歩、日光浴の機会を多く持つ ・近所のスーパー、1時間以内のドライブをレクの一端として実施 ・残念ながら遠出、地域の人々の協力は責任の所在等の問題があり屋外活動は控える	ほぼ毎日散歩や屋外での日光浴が出来るような支援に努め、希望があれば、近くへの買物や1時間程度のドライブに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人能力により家族同意の上実施している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実施している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・エアコン・加湿器での空調管理の実施(スタートアップに合わせるのではなく入居者の体調に合わせた設定) ・玄関・テーブル上に季節の生け花を飾る ・季節感ある張り絵等を作成してもらい掲示する	室温24℃加湿器での空調を管理している。共用の空間には季節の花を生けて、季節感のある貼り絵の制作も掲示して、居心地よく過ごせる空間づくりが出来ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブル、居室等にてくつろいで頂く		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、家族写真等ご本人・ご家族相談し持参いただく	使い慣れた家具やTV等またご自分で作られた作品などを飾り、居心地よく過ごせるような工夫ができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・自室への導行線、居室入り口への顔写真入り表札等を実施している ・トイレの目印に犬のポスターを張る		